

《 1 5 — 5 》 D D 村の近況

【1】 4月3日 海田氏からの報告

．．．（略）．．． D D 撤収について。 最後迄残った4人の学生達 (Somkiet, Uthit, Songsin, Warida)は、気持よくそれぞれの場所へ散ってゆきました。自宅住所を教えてもらっております。村での残りもの全ては、ふたつの寺と学校へタムブン並びに贈呈し、個人へは、小さなお土産以外は、何も渡しませんでした。但し、台所道具は、面倒なこともあり、一切手をつけずにウワンのところに置き去り、次回、医学チームが来るときに使うよう言い置いておきました。村長は、この処置に全面賛成。ポーケンあたりの近しい人達からやや不満の声が出ましたが、これも押えてもらいました。誰もやや不満足ながら、文句のいいようはないという、かなりつめたい処理をして引きあげました。

．．．（略）．．．

D D 調査資料のかなりは、未だ今だ私の手元に置いてあります。宮川の各筆稲作状況 (○, △, x)、スワンのデータ、有用植物図鑑 (未完成)、武邑データの一部、daily activities 詳細調査の一ヶ月分、私の関連データ等です。これらは、私の帰国の際、手もちかアナカンにて持帰ります。

【2】 ソンシン嬢からの便り

1月22日付 : 一人を残して日本人は皆帰ってしまったので、家は静かで、寂しくなりました。残った者は、毎日、日本人のことばかり話合っています。スム・ジープンにまたお会いしたいと思っています。

日付なし : D D は相変わらずです。建築中の家は何軒かあります。とても暑く、木は葉を落しています。雨が来てもよい感じです。ソムキアットさんによれば、田圃には人はいず、スワンばかりにいるそうです。ワット・パーのルアン・ポー・ケンがワット・パーンに移りました。色々問題があるようですが、すでに御存知のことと思います。HN 093は、今では、寂しくなくなりました。その第一の理由は、寂しさに慣れてしまったことです。第二の理由は、仕事があって忙しいことです。とくに、私と舟橋先生が忙しいようです。第三の理由は、私が喋りすぎるからです。私はこれまでそんなにお喋りではありませんでした。でも、辻井先生が来られたら、私も口を閉じることにします。ポー・ケン、マー、デーはスム・ジープンのことをよく思出しているようです。みんな元気です。

3月10日付。SN 157 発 : 村の出来事をお知らせします。

2月22日の寄合の後、村をあげての垣根づくりが始まりました。村長さんに

よると、県の命令だそうです。わたしは、一種のコンテストだと思いますが、村長さんは、パタナー・ムーバーンのためだと言っています。

女の80～90パーセントもが、織物に精を出しています。1月末ぐらいから盛んになりました。男は、魚取りです。とくに先月(2月)が盛んでした。ノンケーには、一日に70～80人もの人が出ていました。しかし、今では、20人ぐらいです。ターブラのフェイテーイにも、この村から毎日10人ほどの人が魚取りに出かけます。コンケンなどへ建築労働者として働きに出るのもたくさんいます。

2月以来、よその村から坊さんや村人が車でペーカーオ(中央タイではラブポリチャクカーオ)に毎日のようにやってきます。DDの人達もよその村へペーカーオに行きます。これらは、タムブン・ドウアン・シーのためです。DDでは、3月17日の予定です。

この季節には、水牛は放し飼いされます。かつてに山岡に出て行き、かつてに戻ってきます。それで行方不明になるものがでてきます。牛飼がいないので、遠くへ遠くへと行ってしまふからです。とくに、今は発情期なので、牝牛が牝の後を追って行くので、なおさらです。

つい2週間前までは、朝は14°～15°Cでしたが、今は大変暑く、また、大変なほこりです。それでカンボンさんは、大忙しです。にわとりが追いかけっこをしても砂ぼこりがたつのですから、水牛の大群が夕方、村に帰ってくるときにはどのようにするか御想像に任せます。

明日は、7組の結婚式があります。

日付なし、ヤソトン発 : DDからのこれが最後の手紙です。

3月12日 ; 舟橋先生離村。わたしは、再びひとりで仕事をする事になりました。辻井先生は、何にでも興味があり、わたし達に質問をあげせつづけです。

御存知のように、今は夏で乾燥しています。しかし、今年の夏は、とくに暑いようです。2階では40～42度、階下でも37～39度です。あまり暑いので、わたし達だけでなく、辻井先生も、インタビューに行くのが億劫になります。とはいえ、早朝は20～24度です。わたしは、風邪をひきました。風邪をひいた日(14日)、村人は、タムブン・パーウエート、または、ブン・マハーチャートの準備を始めました。DDでの年間最大のブンです。16日には、村人は、お寺に参ったり、お菓子を作ったりしました。17日、わたし達学生は休日です。ブン・パーウエートが始まりました。DHなど、余所の村から沢山の人が来ています。ホム・ブンのためです。わたし達は、村の人を訪問したり、手伝ったりしました。夕方、DDとDNの人達がパレードをしました。ヘー・パウエートまたはヘーブラウエート・サーンドンと呼びます。160～170人もの人が行列に参加しました。夜には、楽団の演奏やソイダオ(一種のギャンブルですが、タムブンのためのもの)がありました。

18日、お寺へ説教を聴きに行く日です。70パーセントはお婆さん達でした。夜になると、また、行列がありました。今度は、ティーンエージャーが70パーセントで

した。ヘーカムロンと言います。

19日、わたし達は、仕事を続けましたが、村の人達にわれわれが明日には村を引揚げることが告げました。それを言ったとき、なぜか涙ぐんでしまいました。わたしは、複雑な心境でした。しかし、いつもの強い自分に帰り、涙をすぐ止めました。

20日、海田先生が色んなものをお寺と学校に寄付しました。大変難しいことと思いました。なぜだかはよく御存知と思います。海田先生は、今年は前回の時より、よほど簡単だったと言っておられました。夜、コンケンのリンの店ですきやきを食べました。

21日、朝、ヤソトンに帰るべくバスに乗りました。バスがバーンサワンを通るとき雨が降っていました。雨は、ヤソトンまでの間、ずっと降り続けていました。

《次回の月例研究会》

5 月 1 8 日 (金) 午後1時30分

於 東南アジア研究センター

《社会学関係研究会》

金曜日の午後に東南ア研で行なわれる場合が多い。出席希望者は、その都度、口羽に連絡のこと。

《経済関係研究会》

不定期。次回は4月28日(土)9:30から、東南ア研で。今後も、土曜日の朝になる場合が多い見込。連絡は、福井まで。

※※※ 海田能宏氏は、去る4月11日付で、東南ア研、水文環境部門の教授に昇任されました。

※※※ 林行夫君は、4月から新設の龍谷大学文学部社会学科の博士過程に進学されました。